

宮城県内社会福祉協議会 災害時相互支援協定の取り組みについて

昨年6月に宮城県内各市町村社会福祉協議会間で締結された相互支援協定(3.11東日本大震災等の大規模な災害が発生した際、被災した市町村の社会福祉協議会は、法人運営のみならず、災害時に設置される「災害ボランティアセンター」の運営にも、大きな支障を来すことから、県内各市町村社協間における協力体制やルールとなるもの)において、常日頃から近隣の市町村同士の協力体制や連絡体制がスムーズに取れるよう、宮城県社会福祉協議会が中心となって県内13地域のブロックに分かれ、有事の際には一致団結して支援に取り組めるよう協議検討を行っております。



大崎市社協は、加美町、美里町、涌谷町、色麻町の社協と「大崎圏域ブロック」を形成しており、有事の際の派遣体制や活動内容について協議を行っております。

また、ほぼ毎月、県内各所においての研修会や意見交換会も頻繁に行われており、平成27年度からは、他県で発生した災害の被災地社協へ支援のために派遣される職員の登録も始まる予定となっております。

3.11の教訓から、大崎圏域の社協、宮城県内の社協が一丸となって被災地社協への支援をスムーズ且つ的確に行なえるよう、日々取り組んでおります。



平成26年度 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金 ご協力ありがとうございました

平成26年度赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金への多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様からお寄せいただきました募金は、宮城県共同募金会へ送金し、災害支援事業や子育て支援事業、行政区や町内会への配分事業等、地域福祉活動の推進に役立てられます。

また、歳末たすけあい募金は各地域において、開催されました配分委員会にて、支援の必要な方々、各地域の福祉事業に役立てられます。市民の皆様の温かい善意に感謝申し上げます。ありがとうございました。



平成26年度 大崎市赤い羽根共同募金運動実績報告 (平成26年12月31日現在)

- 赤い羽根共同募金(10月1日~12月31日)
実績額: 16,676,745円
- 歳末たすけあい募金(12月1日~12月31日)
実績額: 9,725,146円

大崎市共同募金委員会・社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会

~地域の皆様と共に学び・共に考える~

防災知識を学ぶ ~古川高校サバメシ体験~



災害発生時において、地域の学校等が避難場所となる場合があります。(指定避難場所になっている場合もあります)

3.11東日本大震災においても、被災地の各小中学校、高校、大学が避難場所となりました。

大崎市社協では、震災での教訓を生かし、いつ発生するか分からない災害時に役立つ体験学習を、学校、地域コミュニティを中心に各地域で行っております。

その一環として、古川高等学校にて、平成26年10月17・31日の2日間にわたり「サバイバルメシタキ体験」を行い、普段、身近にある道具が非常時に役立つという体験を通じ、生徒の皆さんは何を感じたのか?学校や地域コミュニティはどんな役割や効果があるのか?を共に考え、学びました。

◎サバメシとは?

サバメシとは「サバイバル・メシタキ(飯炊き)」の略で、アルミ缶と牛乳パック等があれば、どのような状況でもご飯が炊けるといふ、「いざという時」にサバイバルするための知恵です。災害時にも「簡易炊飯」ということでテレビ等のメディアでも話題になり、昨今の防災意識の高まりを背景に大きく注目を集めています。



各グループに分かれて、お米を炊くコンロとなる空き缶、燃料となる牛乳パックの加工作業から、実際にご飯を炊いて試食を行いました。

グループ毎に、どうしたら燃料がよく燃えるのか?どうしたら早く美味しく炊けるのか?メンバー同士で知恵を出し合い、サバメシを炊き上げておりました。

みんなで力を合わせて作ったサバメシを美味しく口に頬張りながら、今度、作る時にはこうしよう、ああしよう、と、早速、意見交換をし合っており、「今後、万が一、災害が発生した際には、学校が避難場所となる可能性が大きい、その時に今回学んだことを生かせるようにしたい」という声もありました。

これからの地域の担い手となっていく学生の皆さんの姿勢にとっても頼もしさを感じると共に、地域の中における「学校」の役割や地域の皆さんと生徒の皆さんが力を合わせた時に発揮される「共助」という力を再確認することが出来ました。



今後も広く大崎市の各学校や各自治体の皆様と共に考え、学べる体験学習を行い、地域の活力の「きっかけ」となれるよう努めて参ります!こんな体験をしてみたい!

こういう体験はどうか?といったご要望がありましたら、お気軽に大崎市社協各支所へお問合せください。

